

千葉宣嗣さんの 南大阪新発見の旅

2024-6

大な景色を一望できます。

景色についてご質問などがあればお気軽にスタッフまでお声掛けください。



右

詳しくは、各種メニューの詳細はホームページをご覧ください。

10]

やお酒などを気軽に
いただけるカフェ
です。
6-4399-9181
1/9:30~21:30
9:30~21:30
1:00~21:00

※一部利用を制限する場合があります。

59階 ショップ
[SHOP HARUKAS 300]

ハルカス300の思い出となる
ハルカス300グッズやあべのべあ
グッズなどをご用意しております。
営業時間 / 9:30~21:30



※営業時間は変更することがあります。



60階 フォトサービス

ハルカス300来場記念として、フォトスポット
での記念撮影サービスがあります(オリジナル
写真台紙付、有料)。
詳細はホームページで
ご確認ください。

営業時間 / 9:30~21:30
※営業時間は変更することがあります。



ハルカス300(展望台)
キャラクター
あべのべあ
誕生日:8月30日

あべのべあのプロフィールや
スケジュール日記などを大公開!



ぜひ
見に来てね!

地上300メートルの空に生息する、「空もよう」のくま。
空のおおらかに、雲のように気ままな性格。
好きな食べ物は雲、虹の上を歩くことができる。
やさしく、のんびり屋、ゆったりとした「空じかん」の
中で暮らしているので、寝るの大好き。
お天気が変わると、カラダの「空もよう」が変わることがある。

あべのべあ
LINEスタンプ販売中!!





南港トレードセンター
右六甲山 明石海峡



南港と阿倍野斎場（左
下）



二上山 葛城山を望む

世界遺産
百舌鳥・古市古墳群
—古代日本の墳墓群—



世界遺産 World Heritage Site of Osaka
百舌鳥・古市古墳群
Mozu-Furuichi Kofun Group



百舌鳥古墳群と堺の歴史・文化



堺市博物館
SAKAI CITY MUSEUM

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内
TEL.072-245-6201 FAX.072-245-6263
<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/sakaishihaku/>



1. 犬形埴輪 百舌鳥梅町の窯跡から出土。5世紀半ば。
2. 町並み模型 中世末から近世初めの堺の町並みを復元。
3. 慶長大火燧銃(大阪府指定文化財) 堺と近江国友の鉄砲鍛冶による合作。世界最長(3m、重さ135kg)の火燧銃。17世紀初め。
4. 観音菩薩立像(国指定重要文化財) 百舌鳥の地に伝来した白檀仏。6世紀後半から7世紀初め、中国・隋代の作。

※当リーフレット掲載の資料には、常設展示をしていないものもございます。

堺市茶室

博物館で歴史を学んだ後は、抹茶をどうぞ一服。
当館敷地内には国の有形文化財に登録されている茶室2棟があります。

庭園見学(無料) 9時30分~16時30分
立礼呈茶(有料) 10時~16時
博物館開館日のみ開催しています。

堺市茶室 TEL.072 (247) 1447



黄梅庵

奈良県橿原市の今井町の旧家から日本の電力王・松永安左エ門が譲り受けた茶室。昭和55年の当館開館時に神奈川県小田原市から現在地に移築。



伸庵

数寄屋建築の名匠・仰木魯堂の設計により、昭和4年に建設。昭和55年の当館開館時に東京から現在地に移築。



旧浄土寺九重塔

国指定重要文化財、千早赤阪村・浄土寺伝来。嘉元4年(1306)の刻銘があります。

個性豊かな古墳に備わる3つの属性

属性 a)

密集した多様な古墳

百舌鳥・古市古墳群の2つのエリアに密集する古墳は、多様な墳形と400m以上から20m程度までわたる規模のバリエーションを有しています。これらは、同地域、同時代に多様な墳墓が営まれた日本列島の古墳の特徴を最も明瞭に示すものです。

百舌鳥エリア

- 前方後円墳
- 帆立貝形墳
- 円墳
- 方墳

※ 灰色の古墳は構成資産ではありません。



- 1 反正天皇陵古墳
- 2 仁徳天皇陵古墳 (2-1)
- 茶山古墳 (2-2)
- 大安寺山古墳 (2-3)
- 3 永山古墳
- 4 源右衛門山古墳
- 5 琴畑古墳
- 6 忍塚古墳
- 7 孫太夫山古墳
- 8 龜佐山古墳
- 9 龜龜山古墳
- 10 鶴山古墳
- 11 丸塚山古墳
- 12 長塚古墳
- 13 塚塚古墳
- 14 鏡塚古墳
- 15 藤中天皇陵古墳
- 16 寺山南山古墳
- 17 七尾谷古墳
- 18 いたすけ古墳
- 19 善右衛門山古墳
- 20 御前山古墳
- 21 ニサンザイ古墳

古市エリア



- 22 津堂城山古墳
- 23 仲基天皇陵古墳
- 24 鉢塚古墳
- 25 允恭天皇陵古墳
- 26 仲姫命陵古墳
- 27 鏡塚古墳
- 28 助太山古墳
- 29 中山塚古墳
- 30 八島塚古墳
- 31 古室山古墳
- 32 大島塚古墳
- 33 応神天皇陵古墳 (33-1)
- 譽田丸山古墳 (33-2)
- ニツ塚古墳 (33-3)
- 34 東馬塚古墳
- 35 栗塚古墳
- 36 東山古墳
- 37 はさみ山古墳
- 38 藤山古墳
- 39 野中古墳
- 40 向馬塚古墳
- 41 西馬塚古墳
- 42 浄元寺山古墳
- 43 青山古墳
- 44 峯ヶ塚古墳
- 45 白鳥塚古墳

属性 c)

入念で独特な葬送儀礼の証左

各古墳の埋葬施設は墳頂から掘り込まれた墓穴の中にしつらえられ、墳丘上面の各所に埴輪や葺石が施されています。墳丘上で葬送儀礼がとり行われ、その舞台として墳丘が飾られたことは日本列島における古墳の大きな特徴であり、百舌鳥・古市古墳群は、それを明瞭に伝える事例です。



築造時の装飾された墳丘と埋葬施設

埋葬施設(石室及び棺)は墳丘が完成した後、その頂上から掘り込まれた墓穴の中にあり、墳丘表面は円筒埴輪や葺石によって飾り立てられていました。



墳丘を飾る円筒埴輪
(No. 20 御前山古墳)



巨大な帆立形埴輪
(No. 22 津堂城山古墳)



古代人の死生観をうかがわせる水鳥形埴輪
(No. 22 津堂城山古墳)

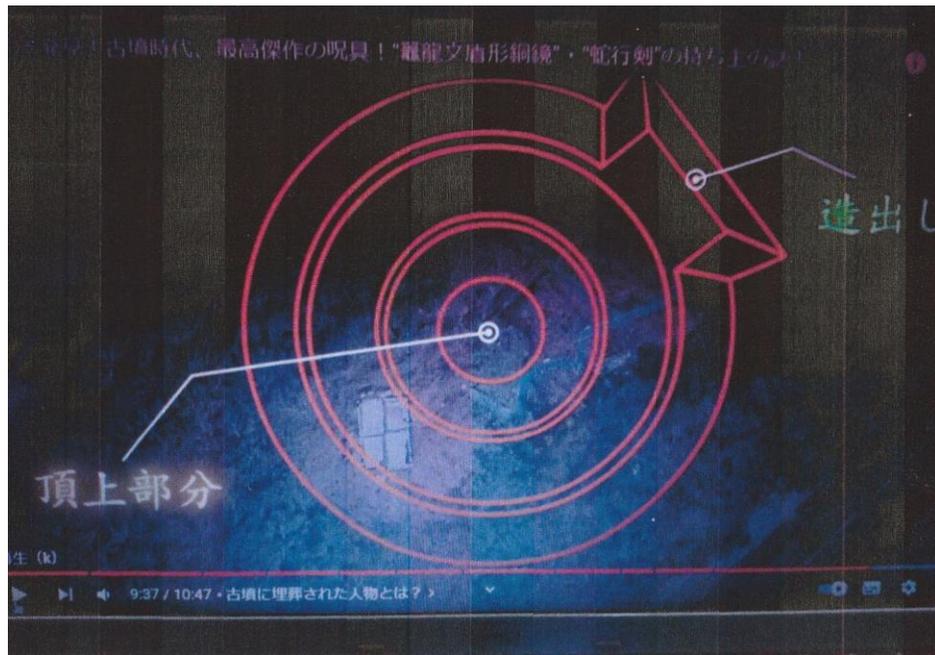


出土した巨大な石棺
(No. 22 津堂城山古墳)

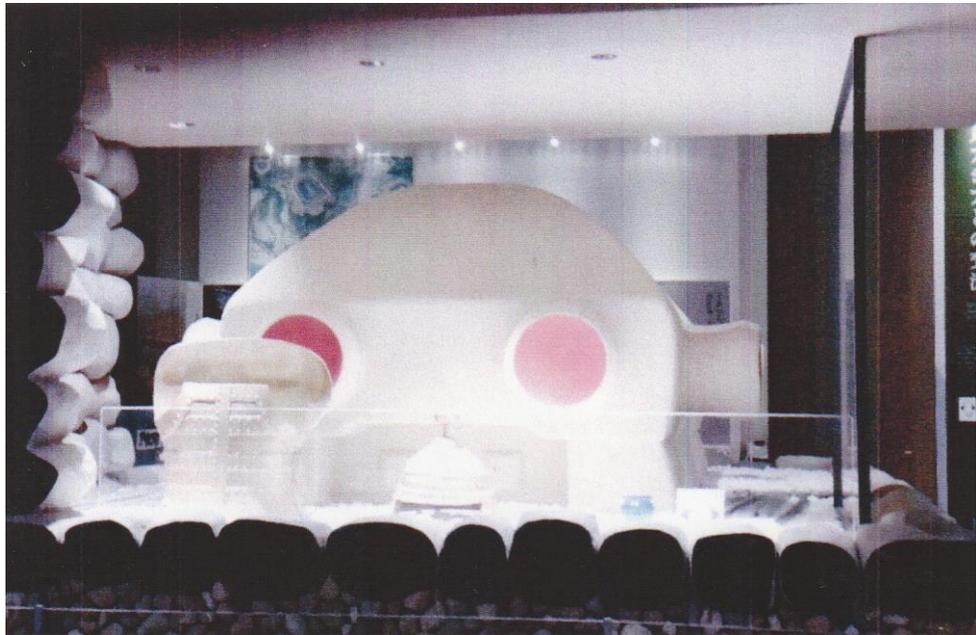


鉄製甲冑
(No. 39 野中古墳
写真: 大阪大学考古学研究会)



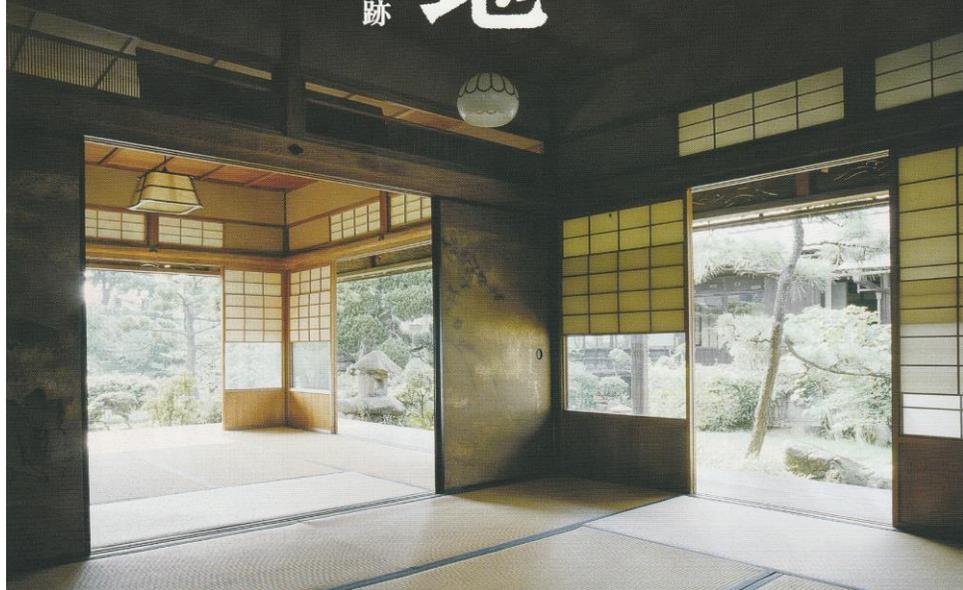






加賀屋緑地

大阪市指定史跡・有形文化財 加賀屋新田会所跡



加賀屋新田会所跡

二百五十年むかしの 豪商の暮らしがよみがえる

加賀屋緑地は、江戸中期の宝暦年間（1750年代）に、大阪の両替商加賀屋甚兵衛が開いた新田会所敷跡です。市内にただ一つ残る新田会所跡として、十年以上をかけて調査・補修・整備が行われました。敷地面積で四八二㎡（千五百坪弱）に及ぶ広大な会所は、財を惜しまずつくり上げた屋敷と庭園からなり、当時の豪商の文化の高さや粋人ぶりがうかがえます。



渡り廊下

書院から居宅へ続く廊下には、巾70～90cmの松の巾広板が使われています。頭上を見れば、軒裏のきめ細かな仕事ぶりが面白い。居宅には、昔のへつらい（かまど）や井戸が復元されています。



冠木門

京都 大徳寺から拝領の瓦を積した、アーチ型の瓦で大胆に造形して復元されたもの。京都 相國寺の有馬頼底管長の筆による「古見堂」の額が掲げられています。



茶室 鳳鳴亭

大徳寺四百十八代寶主松月苗實の自家による「鳳鳴亭」の額が掲げられ、茶席・広間・水屋を備えた数寄屋風建物。高床式の“舞台造り”が珍しく、建築部材の墨書から文化十二年（1815）以前の創建と考えられます。茶席の天井は竹を編み込んだ片流れの形状、広間の天井も黄子や網代など随所のデザインに凝り、簡素な中にも計算し尽くされた趣と風格が漂います。柱や垂木などに今では入手困難な木材を使い、匠が技を注いだ江戸時代後期の名建築です。



玄関

冠木門から書院の玄関に向かってまっすぐ伸びた通路は、遠近法を利用して実際よりも奥行きを長く見せています。玄関の式台（低い板敷き部分）で、代官が駕籠を換付けにして出入りしたとか。



長屋門

火災で失われた長屋門が、現代の最高レベルの富大工の技術で復元されました。ゆるやかに丸みを帯びた独特の形状の屋根、「起り屋根」が特徴的です。



待屋 偶然亭

四阿から茶室鳳鳴亭へ向かう途中に復元された待屋。ここから石橋を渡り、茶室に至る露地庭を通って茶席に入ります。



四阿 明霞亭

その昔の明霞亭は、築山の上にあった四坪ほどの高殿造りの茶室風の建物でした。けれど、昭和20年の空襲で焼失。今では平屋の四阿として再建され、かつて隔上へ上がるのに使ったという松の古木を削った階段が、朽ちかけた姿を現します。なお、築山から眺める茶室が鳳凰の飛び立つさまに見えることが、鳳鳴亭の由来と言われています。



木橋

西池の北端にかかる木橋の横に、水面へと降りる石段が。かつては、池の水はここから屋敷の外へ流れ出て十三軒堀川へ、さらには難波にまで続き、舟で道頓堀の芝居小屋まで運り出したそうです。



植栽

前庭のシダレウメ、竜のように伸びたソテツ、茶室近くのカツカイブキ、センダンの大木、モミジやイチチョウなど、30種類を超える樹々がさまざまな植栽され、四季を表情ゆたかに彩ります。



庭園

ひとかどの茶人としても道を極めた加賀屋甚兵衛の美意識を物語るように、技巧を極めた小堀遠州風の築山林泉園遊式庭園が敷地の西部に広がります。複雑な汀線を持つ心字形の池が掘られ、護岸は玉石組。周囲に苑路を巡らせています。

新田開発と新田会所

都市部を中心に人口が増加した江戸時代、農作物の収穫を増やすための農地（新田）の開発が盛んに行われました。大阪では淀川や大和川の河口部に土砂が堆積した干潟が広がり、ここを干拓する新田開発を、財力のある商人たちが請け負うようになります。豪商たちは、開発した新田の経営拠点として現地に新田会所というものを設けました。そこは商家の別荘であり、また、文人墨客が集まるサロンでもあり、美しい庭園や茶室が造られました。

地名の由来となった加賀屋

加賀屋甚兵衛は、延宝八年（1680）に現在の富田林市に生まれました。淡路町（現大阪府中央区）の両替商加賀屋に奉公に出て、25歳で独立開業。享保八年（1723）から新田開発に携わりますが、後には本業の両替商をたたくた新田開発に打ち込むこととなります。こうして開いた新田が、宝暦四年（1750）に代官の検地を受け、加賀屋新田と名付けられました。ここから「加賀屋」という地名が生まれ、今に伝えられています。



旧書院

宝暦四年（1754）の建築当時のままと伝えられ、入り口には『祥輝福集』の額が掲げられています。玄関・八畳の座敷・六畳の次で構成され、山水の襖絵は豊舟四代目の雲谷等益の作。また、大正三年に作家の西村天因が命名した「輪園」を、清末の学者羅振玉が揮毫した額がかかっています。玄関横の天井に使われた杉の一枚板、北側の梁の長尺物の丸太、桐の透かし彫り欄間など、見どころがたくさん。

※緑（めでたいこと）を象徴する色

「水」ものがたり

～ 駅から始まる「水」物語 1101 12



庭園内から茶室『鳳鳴亭』を望む。「舞台造り」と呼ばれる高床式の柱組みが、まるで飛び立とうとする鳳凰の姿に見えたことから『鳳鳴亭』の名がついた。

加賀屋新田会所跡は、大阪市内では唯一の会所跡で、2001年12月に大阪市により史跡および有形文化財指定を受け、翌2002年6月から「加賀屋緑地」として一般にも公開されるようになりました。4,822㎡の敷地内には、枯山水の前庭や築山林泉回遊式の庭園、茶室『鳳鳴（ほうめい）亭』、待屋『偶然亭』、書院などが並んでおり、江戸時代の新田開発が行なわれていた当時の面影が今も残る歴史的文化財です。

加賀屋新田会所跡



①大和川が川を流す

大和川は、18世紀の初め頃まで、現在の柏原市築留付近で石川と合流して北へ流れ、大阪城の北東付近で淀川（現在の大川）と合流していました。

しかし、下流域（現在の八尾市・東大阪市・大東市付近）は氾濫しやすい地形であったため、旧大和川沿い今米村（現在の東大阪市）の庄屋・中甚兵衛は、幕府に対して旧大和川付替えの必要性を訴えました。1704年、ほぼ真っ直ぐ西進して大阪湾に注ぐ現在の大和川が誕生しました。

下流域では、土砂の堆積が進み、住之江反付近でも新田開発が可能となりました。

1728年、加賀屋甚兵衛は、開発途上の北島新田を買い取り、新田北側の開発に携わりますが、本業の両替商の経営や新田経営がうまくいかなかったことも相まって、後に手放してしまいます。

その後、新たな新田開発に取り組み、1754年、その新田内に経営拠点兼居宅となる屋敷（後の加賀屋新田会所）を建築。翌年、代官の検地が行なわれ、「加賀屋新田」が誕生しました。

現在、この付近の農地は、ほとんど姿を消し、住宅街へと変わりました。



加賀屋新田会所跡の茶室『鳳鳴亭』